

第一問 次の【I】・【II】の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

【I】

私たちの身体の一つ一つの細胞の中の遺伝子は、人間一人をつくりだせるだけの潜在能力をもちながら、はたらいっている遺伝子はごく一部にすぎず、あとの大部分は眠っています。

はたらいっている遺伝子と眠っている遺伝子との違いは、ひとこと言えば、タンパク質をつくることができるか否かです。同じ遺伝子でも、眠った状態では、タンパク質をつくることができないうことです。

そして、このタンパク質を「つくる・つくらない」が、¹遺伝子のスイッチの「ON・OFF」にほかなりません。

(a)、電灯のスイッチが入れば明るくなって照明としての役割をはたします。スイッチが切れていれば、電灯としての機能をもっていないても、照明としての役割をはたしません。これと同じで、遺伝子も、いくら設計図をもっていないても、スイッチが入っていないければ、タンパク質をつくるはたらきはできないのです。

そうなるも、どうすれば遺伝子のスイッチが入るかが知りたくありません。電灯なら、壁のスイッチを²ソウサするなどすればONになりますが、遺伝子のスイッチをONにするにはどうしたらいいのでしょうか……。いま遺伝子におけるこのシステムの研究が急速に進められています。

はつきりしているのは、³人間の思いや行動とはかかわりなく自律的にON・OFFが行われている場合と、⁴なんらかの刺激や環境の変化によってスイッチが入ったり切れたりする場合とがあるということです。

たとえば心臓を形成している細胞は、私たちが意識しなくても収縮・膨張を繰り返して、全身に血液を送るはたらきをしています。心臓は、生まれてから死ぬまで、勝手にはたらいてくれます。(b)、心臓細胞の遺伝子は、自分の役割をはたすために自律的にONの状態にしているのです。

(c)、この心臓も、なにかに驚いたりすると、ドキドキと鼓動が激しくなります。このことは、外部からの刺激によって、それまで眠っていた遺伝子がONになったことをあらわしています。つまり、心臓は自律的にはたらくけれども、外部からの刺激によってもはたらきが変化することがわかります。

人間は思春期になると性ホルモンが分泌されて、男はヒゲがはえたり、女は乳房がふくらむなど、それぞれに男らしく、女らしくなっていくますが、これは、それまでOFFだった性ホルモンの遺伝子がONになってはたらきだすからです。

身体の中には、一定の時間が⁵ケイカするとスイッチが入るタイマー式の遺伝子があつて、これらも心や気持ちのもち方とは関係なくはたらきはじめますが、環境や外部からの刺激などによって、早くなったり遅くなったりすることもあります。

【II】

何度も述べているように、遺伝子で見るかぎり、人間の能力は誰も似たようなものです。すべてそうではありませんが、ある遺伝子ではいろいろなデザインが可能で、それをどう組みあわせていくかは、その人の自由にまかされています。

人間は非常に多くの可能性をもっていますが、その可能性の扉を開くカギの一つは、潜在意識でしょう。潜在能力は潜在意識の作用によって導きだされ、その能力は、限界が容易に見きわめられないくらい大きなものです。

問題はそれをどうやって導きだすかです。

従来の潜在意識論では、潜在能力を引き出す方法として、大きく二つの場合を想定しました。一つは心のもち方。あることの実現を願ってひたすら心に念じると、それが潜在意識に刻印されて、自然にその目的に近づく行動をとるようになるというわけです。

もう一つは外界の変化。たとえば火事に遭ったとき、思いもよらない怪力を発揮することがありますが、これは環境変化に対する瞬時的適応行動で、人は誰でもこうした適応能力を秘めているということなのです。

ただし、こうした潜在意識論では能力の所在がはつきりせず、^{*1}観念論としてしか受け取られてきませんでした。また、潜在能力そのものに疑いの目を向ける人もいました。それというのも、従来の潜在意識論が⁶この疑問にきちんと答えられなかったからです。

しかし、これに遺伝子のもつON・OFF機能を当てはめると、才能や能力の所在が非常にはつきりしてきます。潜在意識にはたらきかけるとは、じつは遺伝子にはたらきかけることであり、心をコントロールすることによって、眠れる遺伝子を^{*2}覚醒させる、あるいは起きている不都合な遺伝子を眠らせることができるということです。つまり、天才と凡才の差は、遺伝子の差ではなく、遺伝子の目覚め方の差であるということがしだいにはつきりしてきたのです。

そして、「人は誰でもとてつもない潜在能力をもっている」という従来の潜在意識論が、かなり正しい指摘をしていたこともわかってきました。

たとえば、子どものときから具体的な目標をもってきた人は、そういうことをまったく考えてこなかった人より、その願望を

実現させうる確率が高くなります。願望なり野望をもっている人は、いつもそのことを考え、そのことを中心にすえて、人生を送っています。そういう人のほうが、目的に近づいたための行動をよく起こします。こうした思考や行動が、7 遺伝子の目覚めを促す大きな要素となるからです。

遺伝子には、自分がどういふ分野で活躍するかまでは書かれていません。そこまで規定されていたら、人間には自由などなくなってしまう。遺伝子が規定しているのは、あくまでも基礎的なことからです。火事場でバカ力を発揮する人もいれば、砲丸投げで力を発揮する人もいるし、百メートルを十秒以内で走れる人もいます。ただし、両者の潜在能力には大きな差はないということです。

8 誰だって、その方面の遺伝子がONになれば、必要な筋肉がつくられ、必要な部分がけずられて、百メートルを十秒内外で走れるようになる可能性があります。問題は、どうやったらONにできるかです。

のびる人、のびない人の違いも、この観点から見るとよくわかってきます。

のびる人とは、眠っているよい遺伝子呼び起こすことに長けた人。それがあまりうまくない人は、能力や才能をもちながらも、のびきれないでいる人です。

学生を見ていると、現在の状況が同じようであっても、「こいつは先へいつてのびるな」「彼はどうものびそうもないな」ということがなんとなくわかるものです。

のびるタイプの第一は、ものごと熱中できる人です。なにかに取り組んだら、まわりがどうあれおかまいなし、脳目もふらず（A）に熱中し、自分のしていることしか考えない。そういうひたむきさのある人間はのびる人です。

加えて、持続性のある人。いくら熱中しても、それが続かなければ成就にはいたりません。寝ても覚めてもそのことを思いつづけ、9 カンタンにはあきらめない。そうした持続性が、少しずつ遺伝子をONにして、私たちをプラス方向に誘導してくれます。

遺伝子にも、あることを契機に一挙にONになる場合と、少しずつONになっていく場合とがあるようです。

(村上和雄『生命のバカ力』)

*1 観念論……現実を離れて、頭の中でつくり上げた考え。

*2 覚醒……目を覚ますこと。

問一 —— 線2「ソウサ」・5「ケイカ」・9「カンタン」を漢字で書きなさい。

問二 (a)(b)(c)に入るものを次の中からそれぞれ一つ選んで、記号で答えなさい。

ア つまり イ たとえば ウ そのうえ エ ところか

問三 —— 線8「誰だって」はどこにかかりますか。もつともふさわしいものを次の中から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア 遺伝子がONになれば

イ 必要な筋肉がつくられ

ウ 必要な部分がけずられて

エ 走れるようになる

オ 可能性が有ります

問四 (A)には漢字四字の熟語が入ります。その熟語を次の中から一つ選んで、漢字に直して答えなさい。

ハ じゆうにんというる イ ぐどうおん いっしんふらん ゆだんたいてき

問五 —— 線3「人間の思いや行動とはかわりなく自律的にON・OFFが行われている場合」と、—— 線4「なんらかの刺激や環境の変化によってスイッチが入ったり切れたりする場合」とありますが、次のア～オはどちらにあてはまる例ですか。「人間の思いや行動とはかわりなく自律的にON・OFFが行われている場合」はA、「なんらかの刺激や環境の変化によってスイッチが入ったり切れたりする場合」はBと記号で答えなさい。

ア 傷口がふさがる イ くしゃみが出る ウ 涙を流す エ 顔色が青くなる オ 爪が伸びる

問六 —— 線6「この疑問」とはどういうことですか。もつともふさわしいものを次の中から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア 人間の潜在能力はどこから出てくるのかということ。

イ 人間の能力はどうすれば発揮できるのかということ。

ウ 人間が潜在能力に疑いを向けるのはなぜかということ。

エ 人間が自分の夢の実現を願うのはなぜかということ。

問七 —— 線1「遺伝子のスイッチの『ON・OFF』」がはたらくと、どうなりますか。【II】の文章の中から三十五字以内でぬき出して、最初と最後の五字を答えなさい。

問八 —— 線7「遺伝子の目覚めを促す大きな要素」を【I】の文章では何と言っていますか。九字でぬき出しなさい。

問九 私たちが自分の能力をのばすためには、何をすることが大切であると筆者は述べていますか、六十程度で答えなさい。

第二問

次の①～⑤の熟語と同じ組み立てとなっているものをあとからそれぞれ一つずつ選んで、記号で答えなさい。

- ①暖冬 ②洗顔 ③訪問 ④左右 ⑤未来

ア 道路 イ 利害 ウ 公的 エ 読書 オ 親友 カ 無理

第三問

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「今日は伸子が来るらしいぞ」
え？

おじいさんは、ぎゅつとひとつ笑って、そのまま行ってしまった。

母さんが来る。母さんがこの家に来るんだ。Aは単純にうれしかった。おじいさんのうちに引越してから、まだ間もなかったから、それほど恋しさはなかったけど、母さんに会えるのはやっぱりうれしかった。

母さんと離れて暮らすことにたくさんの心配はあったけど、¹思っていたよりも気持ちは落ち着いていたし、不安に思うこともほとんどなかった。母さんがここに来てくれれば、と思うことはあったけど、ついこないだまでの母さんとの二人きりの生活に戻りたいとは、もはや思わなかった。

ぼくは自分で意識しないうちに、おじいさんという、母さん以外の身内の存在をとても心強く思っていた。母さんがいなくなったらどうしよう、というぼくの最大の心配事は²杞憂^{きゆう}だった。ぼくにはおじいさんがいた。そして、今は離れているけど母さんもいるのだ。³二人いれば大丈夫なんだ、という根拠のない自信はぼくを元気にさせてくれた。

「行ってくる」
と言って、おじいさんが仕事に行ったあと、Bはいつものように廊下の⁴雑巾^{じやくけん}がけをはじめた。今日も暑くなりそうだな、と思う。

誕生日。毎年思うことだけど、ぼくが八月一日生まれというのはとても不似合いのような気がする。夏の誕生日の子たちは、明るくて元気で活発というイメージだな、なんて自分のことを⁵棚^{たな}にあげて思ったりする。

ギイという耳慣れた音がした。ぼくは高い位置にあった尻を落とし、正座のような⁶格好^{かくこう}になって、ふと木戸のほうを見た。黒い日傘をすぼめ、少しかがんで、その人は入ってきた。

「光輝」
母さんだった。

このときの場面を、Cは⁷ぼくはとても鮮明に覚えている。映画が何かのワンシーンを見ているように、ぼくは、ぼくを含めた広縁^{ひろえん}と庭と木戸と母さんを少し離れた場所から、静かな気持ちで眺めていた。

「陽に焼けたわね」
Dは⁸ぼくを見て、母さんは笑った。ぼくの心の中はとても静かだった。まだほんのわずかの時間だけど、母さんと離れたのははじめてだったし、生まれてから一度も、母さんと離れて泊まることすらなかった。それなのに、久しぶりに会った母さんを見て、ぼくの心はなぜか静かだった。

「元気にしてる？」

母さんは広縁に腰かけて、折りたたみ式の日傘を丁寧^{ていねい}にたたみはじめた。なんだかちがう人みたいだった。母さんはぼくの知らない白いワンピースを着て、ぼくの知らない白いサンダルをはいていた。

「うん」

と返事をして、ぼくの心はひんやりとした。ぼくの考えていた再会（⁹とちがってはおおげさだけど）とちがっていた。ちがっていたのはぼくの気持ちで、ぼくはもつと喜んでうれしがるはずなのに、と残念に思った。

「母さんは元気だった？」

「うん、まあまあかな」

と、ここではじめておたがいの目を合わせたと思う。「麦茶をいれてくる」と言って、Eは¹⁰ぼくは手に持っていた雑巾をかたづけ、台所へ行った。涼しい家の中から、縁側に座っている母さんの後ろ姿を見ると、それこそ、ぜんぜん知らない人に見えた。

「はい」

お盆^{ひん}に載せたふたつのコップから、母さんはひとつを手にとって、静かに口をつけた。

「ああ、おいしいわ。ありがとう」

ぼくも飲んだ。すっかりこの麦茶の味に慣れてしまった。¹¹母さんと二人で住んでいたときの麦茶の味はもう思い出せなかった。

「この暮らしはどう？」

いつのまにか、手を膝ひざに置いて正座をしていた自分に気づいて、あわてて縁側に足を下ろして、母さんの隣そばに座った。

「うん、たのしいよ」

「おじいさんはよくしてくれる？」

「うん」

そう、よかった、と母さんは言った。

「母さんのほうは？ 仕事はどう？ *みどりさんは？ 新しい家は？」

矢継ぎ早やつぎはやにきいてしまつて、これじゃあ、ぼくの気持ちとうらはらだ、と思つた。けれど、母さんの新しい仕事の話は、頭
のどこかでずつと気にかかつていた。母さんの引越先にもぼくは行っていないから、どんな生活をしているのか、時々考
えることはあつた。

(柳月美智子『しずかな日々』)

*みどりさん……母さんの新しい仕事仲間。

問一 —— 線4「雑巾」・6「格好」の読みをひらがなで答えなさい。

問二 —— 線2「杞憂だつた」・5「棚に上げて」の文中での意味としてもっともふさわしいものを次の中からそれぞれ一つ

選んで、記号で答えなさい。

2「杞憂だつた」

5「棚に上げて」

ア 大きな間違ひだつた

ア よく知りもせずに

イ 情けない考えだつた

イ だめな人間のように

ウ 心にひつかかつていた

ウ 考えに入れずに

エ いらぬ気がついていた

エ 自慢じまんするように

問三 —— 線1「思つていたよりも気持ちは落ち着いていた」とありますが、それはなぜですか。解答らんに合う形で文中か
ら三十五字以内でぬき出しなさい。

問四 —— 線3「二人いれば大丈夫なんだ」とありますが、この二人とはだれとだれのことか答えなさい。

問五 —— 線7「ぼくの心の中はとても静かだつた」とありますが、それはなぜですか。文中の言葉を用いて二十字以内で答
えなさい。

問六 —— 線8「母さんと二人で住んでいたときの麦茶の味はもう思い出せなかつた」のはなぜですか。もっともふさわしい

ものを次の中から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア 母さんのこれからの生活が心配になつたから。

イ おじいさんの家の麦茶の方がおいしかったから。

ウ おじいさんとの生活になじんでしまったから。

エ 母さんのことがきらいになつてしまったから。

問七 —— 線9「あわてて縁側に足を下ろして、母さんの隣に座つた」とありますが、ぼくがこのような行動をとつたのはな
ぜですか。もっともふさわしいものを次の中から一つ選んで、記号で答えなさい。

ア 母さんにもっと近づいて座つた方がおじいさんに喜ばれると思つたから。

イ 母さんに対しよそよそしくふるまっている自分に気づかれたくなかつたから。

ウ 母さんに会うことができるのはこれが最後のような気がはじめたから。

エ 母さんに新しい仕事のことなどをいろいろと話してもらいたいと思つたから。

問八 —— 線A・B・D・Eの「ぼく」と —— 線Cの「ぼく」とでは違いがあります。どう違うかを、解答らんに合う形で
答えなさい。